

資金モデルへの変更をロータリー財団管理委員会が承認（7月1日より有効）

ロータリー財団は最近、グローバル補助金における需要と供給のバランスを図ることを目的に、方針上の変更を承認しました。この変更は、2021年7月1日から有効となります。

グローバル補助金は、2013-14年度の導入以来、大きな成功を収めてきました。初年度には868件、4,730万ドルの補助金が授与されたのに対し、2019-20年度には1,359件、9,560万ドルにまで増加しました。グローバル補助金授与額の増加率が100%を超える一方で、同補助金の主な資金源である年次基金への寄付がこのペースに追いついていません。その結果、グローバル補助金への需要が、利用可能な資金を大きく上回っています。これに加え、財団は、新型コロナウイルスがもたらした前例のない課題に取り組むため、2020年3月以来、コロナウイルス対応のプロジェクトに対し、災害救援補助金として3200万ドルを授与しました。

グローバル補助金のために各年に使用可能な国際財団活動資金（WF）の額は、主に年次基金への寄付によって決まります。過去数年間、ロータリーの最優先活動に必要な資金源であるWFは、各年度末を待たずに枯渇しており、結果として、多くの補助金申請に資金が授与できない状況となっています。財団は今年度、グローバル補助金に使用できる資金を増やすため、数々の経費削減策を取りました。また、管理委員会とRI理事会は、財団の運営準備金とRI予算剰余から1500万ドルを国際財団活動資金（WF）に充てました。これにより合計で2000万ドル近い追加資金が今年度に使用可能となりましたが、それでも需要に応えるのに十分ではありません。管理委員会は、グローバル補助金の需要の高まりから、今年度だけでなく今後も資金不足が生じると予測しています。

より多くの資金を確保するため、7月1日より下記の方針変更が適用されます：

1. **ポリオプラスへの地区財団活動資金（DDF）の寄贈に対しては、国際財団活動資金（WF）から、100%ではなく、50%が上乗せされる。その後でビル&メリンダ・ゲイツ財団からの上乗せが行われる。**ロータリーがポリオ根絶のために集める資金に対し、今後もゲイツ財団から2倍額が上乗せされます（上乗せの対象となるロータリーからの金額は毎年5000万ドルまで）。
2. **グローバル補助金のためのDDFに対するWFからの上乗せが、100%から80%に引き下げられる。**2020-21年度には、WFが枯渇しない限り、5月31日までに提出され、6月30日までに承認された申請書に対し、引き続きDDFに100%が上乗せされます。今年度に承認されなかった申請書は、調達資金に調整を加えた上で再提出する必要があります。
3. **年次基金（シェア）寄付の5%が、運営費としてWFとDDFから均等に差し引かれる。**現在、年次基金（シェア）への100ドルの寄付は、50ドルがDDF、45ドルがWF、5ドルが運営費となります。**2021年7月1日より、100ドルの寄付は、47.50ド**

ルずつが DDF と WF、5 ドルが運営費となります。複数の慈善団体格付け機関による評価が示すように、財団は寄付の資金管理という点で非常に優れており、最高の格付け評価を誇り、かつ最も影響力のある非営利組織の一つとなっています。チャリティーナビゲーターからは、13 年間連続で四つ星（最高評価）を受けています。

4. 未使用 DDF を繰越しできるのは 5 年間のみとなる。地区は、財団のプログラムを通じてインパクトをもたらすために、DDF を全額活用することが奨励されています。しかし、2020 年 7 月 1 日には、4880 万ドルもの DDF が未使用のまま現年度に繰り越されました。2026 年 7 月 1 日より、各年度末に 5 年を超えて未使用である DDF は、地区の裁量で、ポリオプラス、重点分野のための恒久基金、ロータリー平和センター、恒久基金、災害救援基金、WF のいずれかに充てられます。

上記の変更についてご質問がある場合は、rotarysupportcenter@rotary.org にお問い合わせください。

ロータリー財団管理委員会

8-Feb-2021

(RI ウェブサイトより)